

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）	総合評価					
かしこく やさしく たくましく	1 自ら課題を持ち解決に向けて、友や地域と かかわり合いながら主体的に学ぶ子ども 2 お互いの「良さ」を認め合い、相手の立場 を理解して、物事を判断する子ども 3 活動の楽しさを味わいながら心身を鍛える 子ども	・教職員一人一人の目標に対する意識の持ち方と児童への理解、児童との信頼関係が重要になると思います。さらに、教職員一人一人の意識向上のための手立てを考えていきたい。 ・楽しく学習する姿は見られる。めあてに向かって追究する力をつけた。 ・1年生47名、毎日楽しく通っている。この4ヶ月で成長した姿がともに見られる。 ・自分で考えたり、友だちの考えを聞いたりすることはできたが、さらに考えを深め、ふり返るまでに至らなかった。単元毎に軽重をつけながら、振り返りまでしっかりできるようにしたい。 ・目標に向けて改善を試みながらも、具体的な児童の姿で成果をみいだすまでに至らない現状を感じている。 ・まだ十分に達成されているわけではないが、4月から7月までの間に主体的に学び、お互いを大切にすることを増えた。 ・授業は積極的に受ける子どもが多いが、一方で指示が通りづらく、聞く力をつけさせたい。男女分け隔て無く遊んでいる。裏山や校庭で元気に体を動かしている。 ・前向きな子どもが多く、声をかけるとしっかりと話を聞いて活動できたので充実した。 ・他学年との交流活動によって、同学年の友だちの他に他学年とのつながりができることは、相手のことを考えることでも良いことだと感じる。廊下でのすれ違いで声をかける姿などよい。職員が必要に応じて仲介していきたい。					
	今年度の重点目標		A	B	C	D	改善策・向上策
	かかわり合いのある「主体的・対話的」な授業の実施（学力向上）	・今後も個々の先生方の取り組みに期待します。 ・1日に1回はクラスの全員が発言している。 ・初めての授業ということもあり、子どもたちの「主体的・対話的」な姿は、少なかった。 ・教師の講義的な授業が多すぎ、活躍できる児童が限られた。 ・ペアやグループで活動できる状況をあまり作ることができなかった。 ・発言に発言している。 ・各学年の授業の中で、意識的に位置づけられるようになってきている。 ・話を聞いていくと「楽しい」と感じる子どもが多かった。					・授業づくりを前日にきちんと行い、考えていけるようにする。 ・課題をすえたあとは個人追究できる時間をしっかり取る中で、友との関わりを広げる手立てを考えたい。 ・友だちと協力しながら課題を解決していく授業を作りたい。 ・話を聞く態度を向上させる。 ・「ちえの輪」タイムのように、職員も子どももキャッチフレーズ化して、対話的な場面を位置づけた。
	互いの「良さ」をわかり合える学級・学年づくり（やさしい学校）	・優しい面が見られている。 ・遊びや班行動を通して、協力することが多くできた。 ・友だちの良さを少しずつ分り、優しくもって関わられるようになってきた。 ・児童の中に自分本位の考え方や行動で周囲に配慮できない姿があった。 ・友だちから見たその人の良さを考える時間を作ることができた。 ・素直な子どもたちなので、どう行動すると良いか具体的に伝えるとよりよい活動を作り上げられる。 ・グループ、ペア学習において、相手を思いやる姿勢ができた。 ・「かみさまのおくりもの」の授業などで、自他のよさがわかりあっている様子が見られた。					・まだ、教師のいないところで起こる問題が多いため考えて行きたい。 ・良い姿を具体的に示し、意識させる。 ・学活や道徳などで、友だちの良さを見つけ、感謝の気持ちの持てる時間を作りたい。 ・まだ自分勝手な子どもが多いので、人の良さに目が向くよう声をかけていきたい。
目当てを持って運動や活動に取り組む集団づくり（健康で安心・安全な学校）	・大きな事故やケガがなく、ありがたい。 ・休み時間になると廊下に飛び出し、走ってしまう子がいる。 ・縦割りや全校での活動を見てもとてもよくできていて感じている。 ・運動会、高原学習などの行事では、めあてをもって取り組めた。 ・なぜ行おうか理由を考えたり話したりする時間を作ることができた。 ・運動会では、やる気を持って取り組めた。 ・学習ボランティアの補助により、安心してさいまに集中することができた。 ・運動会に向けての学年や全校の練習、委員会のクラスマッチなど、一人一人頑張ることができた。					・友だちに強く叩かれたと泣いている子もいるので、安心・安全をもう少し考えたい。 ・日常生活や授業の中で、自分から目標に向かって取り組める。 ・活動が何となくにならないよう、何のために行うのかを話し合っていけるようにしたい。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育課程		① 各教科における表現活動の充実	各教科・総合的な学習の時間の学習場面で、自分の考えを表現したり、他者の考えを受け止めたりして自分の考えを深めることができたか。	・全員がみんなの前で堂々と話せるようになった。（泣いていて話せなかった子どもでもできるようになった。） ・他者の考えから自分の考えを深めるまでに至らなかった。 ・ペア、グループ学習等で自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞き考えたりすることは楽しいようだが、深まりには至らないことも多い。 ・算数では、自分たちでなんとか解こうとする気持ちが出てきたが、国語で自主性を高める指導はあまりできなかった。 ・発言はできるので、友だちの意見を聞くことに力を入れていきたい。 ・部分的に表現活動を取り入れることもあったが、子どもの自発的表現になっていない。 ・子どもたちの考えを受け止め、それにより授業を変えながら行えたが、全員の考えすべてを受け止めきれなかった。					・演奏を発表し合うことはできるが、さらに深めるところに発展させたい。 ・多くの考えを共有すること、さらに自分の考えを深められる時間を確保したい。 ・子ども自ら、表現したい、深めたいと思える問いや活動を考えたい。 ・授業前にどんな様子になるかを考え、その対応も前もって考えておけるようにしたい。
		② 道徳教育・人権教育の充実	自分の考えをもち、自分とは異なる考えを持つ相手の立場にたった言動ができるようになったか。	・週1の道徳の時間の確保。日々の道徳の実践。 ・友だちの考えを聞くことはできたが、その人の立場になることまでは十分にできなかった。 ・自分の欲求が強く、人の気持ちよりも自分の言い分を主張してしまう場面が見られた。なかなかより考えられない。 ・トラブルになったときに、お互いの感じたことを伝えているが、まだ考える前に行動してしまうことが多い。 ・道徳の授業や一般論としてはわかっているが、自らの行動と結びつけて考えることは難しい。 ・4月に比べ相手のことを考えた言動や言葉づかいができるようになった。 ・全校で校長講話を聞き、それぞれ考えることができたことは良かった。 ・少人数でカードを見て考えることができた。 ・まだ自分のことしか考えられていない。					・相手と関わろうとするが、自分の行動にまでは結びつきにくい。個別指導する。 ・それぞれの考えにふれることで、考え方は1つではないことを意識できるようにしたい。 ・道徳、エンカウンター、SST等の充実 ・ふり返りの場を効果的なタイミングで設けたい。 ・道徳の中で考えさせて行くとともに、具体的な場面と合わせて進めていくようにする。 ・道徳などで、相手のことを考えられる場を設定していきたい。
		③ 特別活動の充実	目当てをもって行動するとともに、自分の行動を振り返り、次の行動へのめあてをもつことができていくか。	・金管の活動では、長期、短期のめあてをもって活動できた。 ・活動が単発になってしまい、次の行動へのめあてまで意識づけができなかった。 ・自分なりのめあてをもって努力できる子どもが多い。しかし、ふり返りがおろそかになるので、一つ一つふり返り、次へつなげたい。 ・運動会では、「～をがんばる。」と練習からしっかり動けた。 ・大きな行事に向けて、期待感をもって取り組めた。 ・めあてを持ち、それを次につなげることが難しい。 ・特別支援の子も子どもたち今年度は、クラブ活動や委員会活動に参加できている。					・目標を立てさせることをやらなければいけない。 ・見直しを持ち、計画的に進めていきたい。 ・日常の中で、自分にとっての課題やめあてを意識できる場をつくる。 ・どういっためあてを持つか、最初に聞いた書きかけたりしていく。
		④ 読む活動の充実	朝読書、読み聞かせ、図書館の時間などの読書活動を教師の積極的なかかわりによって充実させているか。	・こんべいとうのみなさんには、感謝です。もう少し、回数が増えるとうれしいです。 ・50冊以上をめぐして図書館に通えた。（2/3以上達成） ・図書館の時間を図書館の先生にお任せすることが多かった。 ・読み聞かせ、本の紹介、授業の関連コーナー等を継続して行っている。興味を示して読む子どもが多い。 ・授業に際しては本を官尾先生にお願いして準備していただき、ありがたかった。 ・読み聞かせが好きで子どもが多い。 ・朝読書を中心によく本を読む姿が見られた。 ・読み聞かせにより、本のすばらしさを伝えるきっかけをつくった。しかし、読むことそうでない子の差が激しい。 ・子どもによって差が大きい。 ・朝読書は、どの学級も静かに読書に向かう姿が見られる。 ・自分から本を手にする。					・一緒に本を読んだり、読み聞かせをしりする。 ・2学期は休み時間にも借りよう声かけをしていく。 ・教師も関心のある本を図書館で一緒に探などをしていく。 ・一人一人の言葉かけを意識し、読まない子が読める本や興味を持つ本と一緒にさがしていく。 ・自分から進んで読みたい気持ちや中学期以降、どう働きかけて育てていこうか考えたい。 ・読む本が決まってしまう。
		⑤ 授業の充実	考える活動、表現する活動を意識した授業に取り組む、主体的・対話的な学習が活発に展開されているか。	・算数を聞き出す活動では、深まりのある言葉を引き出せなかった。 ・考えたり、友だちの考えを聞いたりする時間を作ることができた。 ・子どもたちが主体的に学ぶには、まだまだ工夫が必要。 ・教材研究を多くやるほど、楽しく生き生きとした授業になる。 ・対教師の講義的な授業が多くなってしまった。 ・一人一人が意欲的に主体的に取り組めるように工夫したが、まだ足りないところが多くある。 ・忙しい中だが、それぞれのクラスで意識して取り組もうとしている様子が見られた。 ・友と関わりながら、自分から関わりを求めて取り組んでいる。					・聞くだけでなく、考えを深めたり、振り返りの時間まで確保できるようにしたい。 ・教材研究を多くやっていきたい。 ・子ども自らが聞きたくなる授業をつくる。 ・授業づくりを前もってしまいうで具体的な問いや行動について授業をつくっていきけるようにしたい。 ・本気でやってみようと思う課題に出会わせたい。
学習指導		⑥ 家庭学習の充実	基礎の定着及び学習への意欲を高める家庭学習が位置づけられているか。	・自主学習をする子ども何人かいた。宿題の提出率もよい。 ・平日は、ドリルや漢字練習、休日は、自主学習を行った。 ・自主学習の取り組みに個人差が大きい。 ・算数、ひらがなと出ている。家に帰るすぐにやる子どもが多いと聞く。 ・その日の課題、日記、自主学習の3点セットで定着して行えた。 ・子どもたちが意欲を持ち取り組めるようプリントをつくり毎日行かせた。1日の宿題量が多かったと思う。 ・家庭にも協力を得ながら、週間付してきた。 ・自主学習の指導がたいへん丁寧になされるようになり、充実が見られてきている。 ・自主学習に継続して取り組んでいる。					・さらに自主学習を充実させていきたい。 ・内容の充実について検討する。 ・一人一人にあった宿題量をもう少し考えていけるようにする。 ・なかなか定着しない児童には、個別に関わってできるところから始める。
		⑦ 基本的な生活習慣の充実	自分からあいさつ、「～くん、～さん」の友の呼び方、靴のかかとそろえ、時間のけじめなどの基本的な生活習慣が日常的に身につくような指導がされていたか。	・個人差を感じる。さらに、個人によせた支援をお願いします。 ・授業のはじめと終わりの時間を守るようにした。 ・友だちの呼び方や靴をそろえることは、おおむねよくできた。 ・言われると直るが、どうしたら常に自分からできるようにするのか？ ・靴のかかとそろえを毎日必ずはできなかった。クラスの係協力して学級みんなで行えるようにしたい。 ・チャーム着席ができる。休み時間にはあだ名で呼び合っている子がいる。 ・時間は意識した。清掃は今ひとつ。 ・目にしたときは必ず声をかけたり指導を行うことができた。ただ、直らない子どもが多すぎる。 ・あいさつは、こちらからすると返事が返ってきている。外靴との区別をつけられるようになった。 ・あいさつウイークが、サイン集めが中心になってしまい、その後のあいさつに生かせなかったことが残念。					・時間にルーズな面があるので、クラス全体で時間を意識して行動できるようにしたい。 ・整理整頓、清掃のやり方について時間を設け確認する。 ・言葉だけでなく、直るような工夫が必要だと思う。ポイントカードなどを作り、工夫していきたい。 ・かかとを踏んでいる児童には、今後も声をかけていく。 ・目的を大切に活動を行いたい。 ・声をかけていきたい。
		⑧ 自他を大切にす る気持ちの醸成	学校生活全般で相手を意識させ、互いの気持ちを考えたり、相手に寄り添った行動がとれりする場面を日常的に取り入れることができたか。	・友だちの良さを思いやる場面を作ることができなかった。 ・なかなか他人の気持ちを理解するまでは心が育たない。 ・友だち同士のトラブルも少なかったが、いざという時、みんなで考える時を増やしたい。 ・トラブルになったときに、されて嫌だったこと、自分が悪かったことを考えるようにした。 ・自己本位の言動が目立つ児童がいる。 ・4月に比べ、少しずつお互いを考えられるようになってきたが、教師のいない所ではまだできていない。 ・ペア活動の積み重ねが生きてきている。					・廊下を走ると他人にケガをさせてしまったり自分も危険なことになる恐れがあるが、走ってしまう児童がとても多く、気になります。 ・定期的な友だちの良さを認め合える場面を作りたい。 ・一方的な説教になってしまうので具体的なよい行動について考えるようにする。 ・できるだけ子どもたちの中に入り、全体をみれるようにしていくとともに、関係作りのきっかけをつくって行きたい。
地域との連携		⑨ 地域に根ざした学習の充実	地域の自然・人材・文化財から学ぶ学習を仕組み、豊かな体験を通して人や物との関わりを学ぶ学習をすすめることができたか。	・金管では、上田吹奏の方から指導を受け、市内で活動している姿から学んだ。 ・地域探検を通して、地域の様子を学ぶことができた。 ・川遊び2回 ・蚕の飼育や大豆の栽培を通じて、地域の人や自然にふれる関わりをすすめている。もっと充実させたい。 ・裏山、川遊びと自然に多く親しむことができた。 ・そば作りを行うが、種まきが天気の関係でできなかった。 ・地域の自然の中に出て活動できた。 ・蚕を通して地域の方と関わり、生き物や人との関わりをつくるきっかけや良い学びができた。 ・ほとんどの学年で地域の自然や人材と関わりながら学ぶ学習を展開できていた。					・実際に見に行ったり、地域の人に話を聞いたりしてさらに学習を深めたい。 ・そば作りで、自分たちができないことがないか考えて行く。 ・課題を据え、継続的な学びにつなげたい。 ・全員がさらに意欲的に興味関心を持つよう楽しさや喜びを子どもたちに伝えていきたい。 ・何ができるか考えたい。
		⑩ 情報の発信と連携	学校公開、学校・学年・学級単位などを通して児童の様子や学校の願いを伝え、保護者・地域との連携に努めているか。	・ホームページを教頭先生に更新していただき、ありがたかった。 ・子どもたちの感想や様子を学年通信に載せることができた。 ・学年だより、学校だよりで子どもたちの様子を伝えている。 ・毎週学級通信を発行した。保護者ともこまめに連絡をとりあった。 ・学級通信では写真を中心に子どもたちの様子を伝えた。 ・通信や連絡帳で家庭との連携をはかった。 ・毎週お便りを出し、学校に来て授業をみてもらうなどのことができた。 ・毎日の連絡ノートでよかった面を中心に伝え、電話でも連絡を取っている。 ・学校からの発信は、十分にあると思うが、受け手側の反応に差がある。お便りは、読んでいただきたいご家庭には、メールでその件伝える。 ・お便りの内容が連絡のみにとどまらず、子どもたちの様子をよく伝えるものになってきている。 ・学年だよりを充実させたい。					・定期的なおたよりの発行。 ・引き続き、続けたい。 ・通信や連絡帳で家庭との連携を続けたい。 ・週1回のお便りでは伝えられないところもあったため、場面に応じてもう少し出して行く。 ・今後も家庭と連絡を取り共有できるようにしていく。必要に応じて支援会議も行う。
学校運営		⑪ 授業の改善	明確な自己課題を持ち、その解決のために授業公開や各種研修に積極的に関わり自己研修に努めているか。	・初任者研修や重点研究を通して、先生方の授業から学ぶことが多くあった。 ・がんばりたいけど・・・ ・算数の授業公開では、様々な考えを学んでいる。 ・各種研修に進んで参加できた。 ・研修に多く行き、自分の授業が良くなるよう人に聞いて授業を行うことができた。 ・毎週のSSTを通して、聞く姿や自分の自信などがついてきている。 ・教育課程研究協議会をきっかけに自分が取り組みたい授業を仕組むことができた。全校で関わる研究会にしていたのでありがたい。 ・日々、職員室の中でも活発に授業や子どもに関わる話が聞かれる。					・学ぶだけでなく、良さを自分の学級や授業に取り入れていきたい。 ・研修したことを授業にどう活かすかを模索したい。 ・学校の中で積極的に他の先生方の授業を見せてもらい、逆に自分の授業をみてもらい、アドバイスをもらっていきたい。 ・自分自身の課題を持ち、スモールステップを踏みながら実践していく。 ・学びにつなげたい。